二月定例会の主な内容

第八回（二月）定例会は、二月十三日に招集され、三月十九日までの三十五日間にわたり開催しました。

この議会では、市長から平成二十一年度の施政方針が述べられ、平成二十一年度予算議案、平成二十年度補正予算議案及び条例議案等を審議し、いずれも原案のとおり議決しました。

また、二月定例会における市長の施政方針に対しては、今回から会派を代表して質問をすることとなり、八つの会派から代表質問が行われました。

さらに、八人の議員から個人質問が行われました。

この議会の主な内容を紹介します。

一般質問

▼代表質問▲

自由民主党NUMAZU

一般会計から他会計への繰出金に対する考え方は

問　平成二十一年度予算における一般会計から他会計への繰出金の総額と繰出金に対する考え方は。

答　平成二十一年度予算における一般会計からの繰出金は、七特別会計へ三十四億五千九百八十四万九千円、四企業会計へ四十三億六千二百四万五千円、総額は七十八億二千百八十九万四千円となる。これらの繰出金は、介護保険事業特別会計のように政令で定められた繰出金はもとより、病院事業会計のように市民福祉の向上を図るために設けた会計への繰出金もあるため、ある程度の負担はやむを得ないと考える。しかし、一般会計からの繰出金は特定財源が少なく、財政負担も多大であることから、行政コストの削減とともに、企業会計では、一般会計からの繰り入れに依存せず、財務体質の独立採算を目指し、引き続き経営の合理化、効率化に努めていく。

日本共産党沼津市議団

広域合併に対する認識は

問　広域合併に向けた行財政課題に対する認識は。

答　地方自治体がその地域に最もふさわしい公共サービスをみずからの意思で展開するには、これを支える権限・財源・人材がいまだ不十分であると認識している。現在、県東部地域の市町は安定した行財政運営を行っているが、社会の変化や道州制への移行を見据えると、このままでは、この地域は将来埋没してしまうのではないかという危機感を強く持っている。今後は、みずからの権限と財源により地域経営ができる、高い行財政能力を持った基礎自治体の実現が必要不可欠になるとの考えから、これを担い得る規模として、まずは中核市、さらには政令指定都市の実現を目指していく。近隣市町とひざを交えて話し合い、一刻も早く広域合併が実現できるよう全力を傾けていく。

新政会

プレミアム付商品券の内容は

問　定額給付金の給付に合わせて発行されるプレミアム付商品券の具体的な内容は。

答　プレミアム付商品券については、市内での消費拡大を図るため、国の緊急経済対策の一つである定額給付金の給付時期に合わせて発行できるよう、沼津商工会議所及び沼津市商工会とともに準備を進めている。商品券の発行総額は五億五千万円で、そのうちプレミアム分は五千万円であり、販売額の一〇％を上乗せする考えである。商品券は千円券の十一枚つづりを一万円で五万セット販売し、有効期間はおおむね六カ月で、商品券を使用できる店舗等は市内全域を想定している。商品券の販売は、沼津商工会議所、沼津市商工会原・戸田支所を初め、中心市街地等に販売所を設けるなど、消費者が商品券を購入しやすいよう、商工団体とともに検討を重ねている。